

## 小田原市根府川の地形・地質と震災遺構をたずねて

快晴のもと盛会に開催できました (2021.10.31)→変更する?

大正関東地震で大きな被害を出した小田原市根府川周辺の地形・地質と震災遺構をたずね、江之浦海岸では露頭や転石の観察をしました。南岸低気圧が抜けた翌日、秋晴れの穏やかな天気の中で、参加は定員通り 15 名。コロナ禍で、行事が難しい中、感染症対策を徹底しての開催でした。

1 日時 2021年10月23日(土) 9:30~14:00

2 コース 根府川駅集合(トイレ)→根府川駅の地すべり地形を眺める→片浦小学校の入口付近の「慰霊塔」→寺山神社の「大震災耕地復旧記念碑」→岩泉寺の「大震災歿死者供養」碑→白糸川の様子→白糸川根府川集落白糸川橋梁付近「宮本家慰霊碑」→白糸川→釈迦堂と釈迦仏→旧料金所(トイレ)→江之浦港(昼食・トイレ)溶岩流と転石→旧料金所(トイレ)→根府川駅解散

3 案内 山下浩之(神奈川県立生命の星・地球博物館)  
一寸木肇(大井町教育委員会おおい自然園)

4 内容

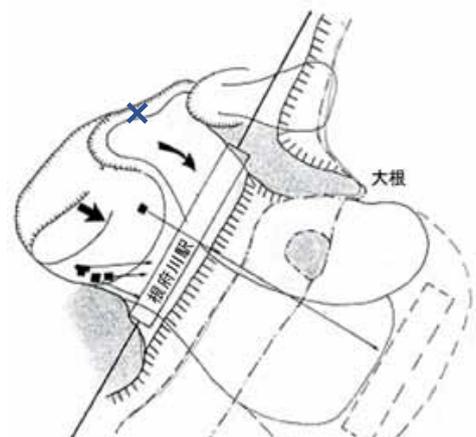
(1) 根府川駅付近の崩壊地形・地質と震災遺構

■地形・地質の解説(山下講師)

- ① 海岸露出の溶岩は米神溶岩と言い、斑晶を多量に含む玄武岩質安山岩で、上に根府川溶岩が重なります。根府川溶岩は米神溶岩より珪酸量が多い無斑晶安山岩です。板状節理が特徴でたぶん高温で流動性があったのでしょう。この場所の南の江之浦地区にある岩溶岩が露出してこちらでも無斑晶安山岩で根府川溶岩と類似しています。
- ② 片浦中学校(現星槎国際学園高等学校)の入口付近から下には、根府川溶岩の石切場があったであろうと思われます。
- ③ 地震動直後に地すべりが発生、下り列車7両を海に押し流しました。根府川溶岩の下位にある風化した火山性堆積物(軽石)が地すべりの素因である(釜井 1991)とされています。

■震災遺構(片浦小学校通学路の階段横)の解説(一寸木講師)

大正4年(1915年)開校の尋常高等片浦小学校は現校より北方の小字マキヤにありましたが、火災により焼失して新校舎ができた矢先に震災により倒潰し火災で再び焼失。陥没と地すべりした土地を整備して昭和9年現在地(海拔 82.4m)に新校舎を建てました。震災で亡くなった教職員 2 名のために建立した慰霊塔の前では、犠牲者の冥福を祈りました。



釜井俊孝(1991)より引用

(Xは上写真撮影地点追記)



(左)通学路の片隅にある慰霊塔の前で説明



(右)手前の三角形が慰霊塔

## (2) 白糸川流域の根府川集落の震災遺構と釈迦堂

■本震で白糸川上流の大洞山が崩壊し、5分後の余震直後に山津波となって根府川集落を襲い、根府川村の約300名弱の方々が亡くなりました。岩泉寺の「大震災遭難歿死者供養」碑は根府川石でつくられていました。(山下講師)



### ■釈迦堂

寛永9年と正保4年の地震による民家の倒潰、津波の襲来などがありました。そこで不安に満ちていた村内世相安泰を祈って白糸川沿いにあった岩泉寺境内の岩盤に釈迦尊像を像立しました。さらに岩泉寺は、1659年の大洪水で現在の高台に移されましたが、釈迦尊像は同じ場所に残りました。1923年の関東地震で、山津波で流され、上の鉄橋が落ち、さらに山津波の土砂に埋没してしまいました。震災後にお釈迦様を掘り出してこの場所にお堂を建てて再建しています。(一寸木講師)

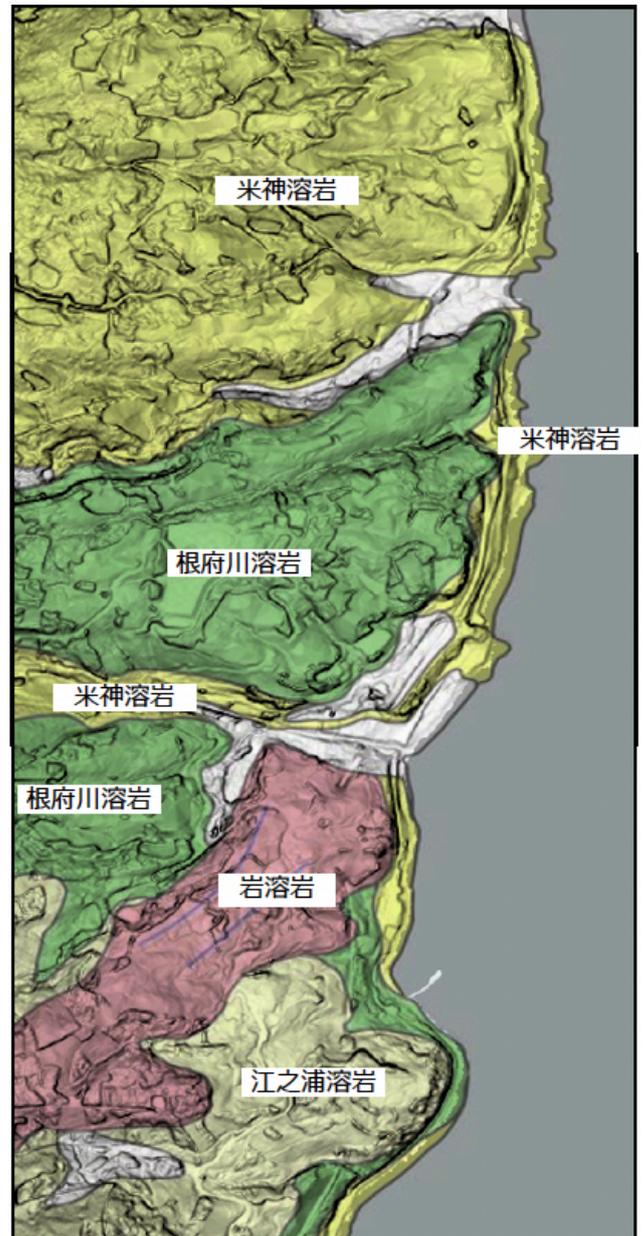


### (3)江之浦港周辺の露頭と転石(山下講師)



■クリンカーと溶岩からなる露頭。足元の溶岩の化学分析をすると、地質図では米神溶岩グループとなっているが、江の浦溶岩グループに似ているということがわかりました。

(右)根府川地域の溶岩のSlope Map図



■ガラス質黒色安山岩の転石の給源は不明ですが、化学組成的には上述の安山岩と大差がないため、同じ溶岩と思われます。黒色に見えるのはマグマが急冷されてガラス質になったためです。最後に、火打金で叩いて火花が出る実験を行いました。

#### (4)巡検を終えて

今回は「巡検で自然災害伝承碑を扱ったのは珍しいけれど、有意義だった」という趣旨の意見を複数聞きました。豪雨災害が全国で多発するようになり、国民の意識がますます高まっています。地質・地形的研究は災害の素因を解明する意味で重要なテーマであり、持続可能な防災教育につながります。今回の野外巡検により、「災害をどのように伝えていくか」という課題を見つけることができました。講師のお2人に感謝申し上げます。

(記録:相原延光)



(黒色安山岩と火打金)